

多摩川上流羽村堰はホオジロガモの貴重な越冬地！なぜ羽村堰なの？

日本野鳥の会・奥多摩支部

目的

多摩川羽村堰周辺には、2001年1月31日に初めて♀1羽を観察して以来、ホオジロガモ(*Bucephala clangula*)が13年連続して飛来している。その飛来数は年を追うごとに増加傾向にあり、奥多摩支部の公式データでは、2008年には過去最大数の20羽を観察した。また個人の記録では、33羽を観察もある。多摩川水系で北方系のホオジロガモがこれほどまとまって越冬する地域は他には無く、羽村堰周辺は非常に貴重な越冬地のひとつである。また関東地方でも、内陸部での継続的な越冬地は数箇所しかないと思われる（環境省モニタリング1000のデータより）。

奥多摩支部では、この貴重な越冬地を守るため、「ホオジロガモ生態調査」（通称ジロチョウ）を実施し、観察データを蓄積し、環境保全を目的とした資料を作成することとなった。期間は10年間を予定している。

調査方法

●1（個体数の確認）

（1）一斉調査と自主調査の複合型でデータの精度を上げる

（2）調査期間 10月29日～3月31日

・一斉調査 上記期間の第1、第3日曜日

・自主調査 上記期間で随意に観察

（3）調査時間

・一斉調査 7時～9時

・自主調査 随時

（4）一斉調査・定点調査

・羽村堰から圏央道橋まで8ヶ所に定点を設け、一斉カウントをする。

・トランシーバで重複カウントを避ける

●2（過去のデータの収集）

広く会員に呼びかけ、過去の観察記録を収集する。奥多摩支部ホームページに専用投稿ページを作成する。

●3（生態の調査）

（1）ねぐら調査

・夜のねぐらの場所を探し、夜間の生態を調査する。

（2）食性調査

・何を食べているか、それが羽村堰に多いものかを特定する。

（3）環境調査

・調査対象区間の河川の環境（水位・流速度等）を調査し、好む環境を把握する。

保全への取り組み

多摩川河川は、治水事業が継続的に行われており、羽村堰周辺においても今後も大きな工事が入る可能性がある。

ホオジロガモの越冬環境を損なわない工事への提言の資料となる。

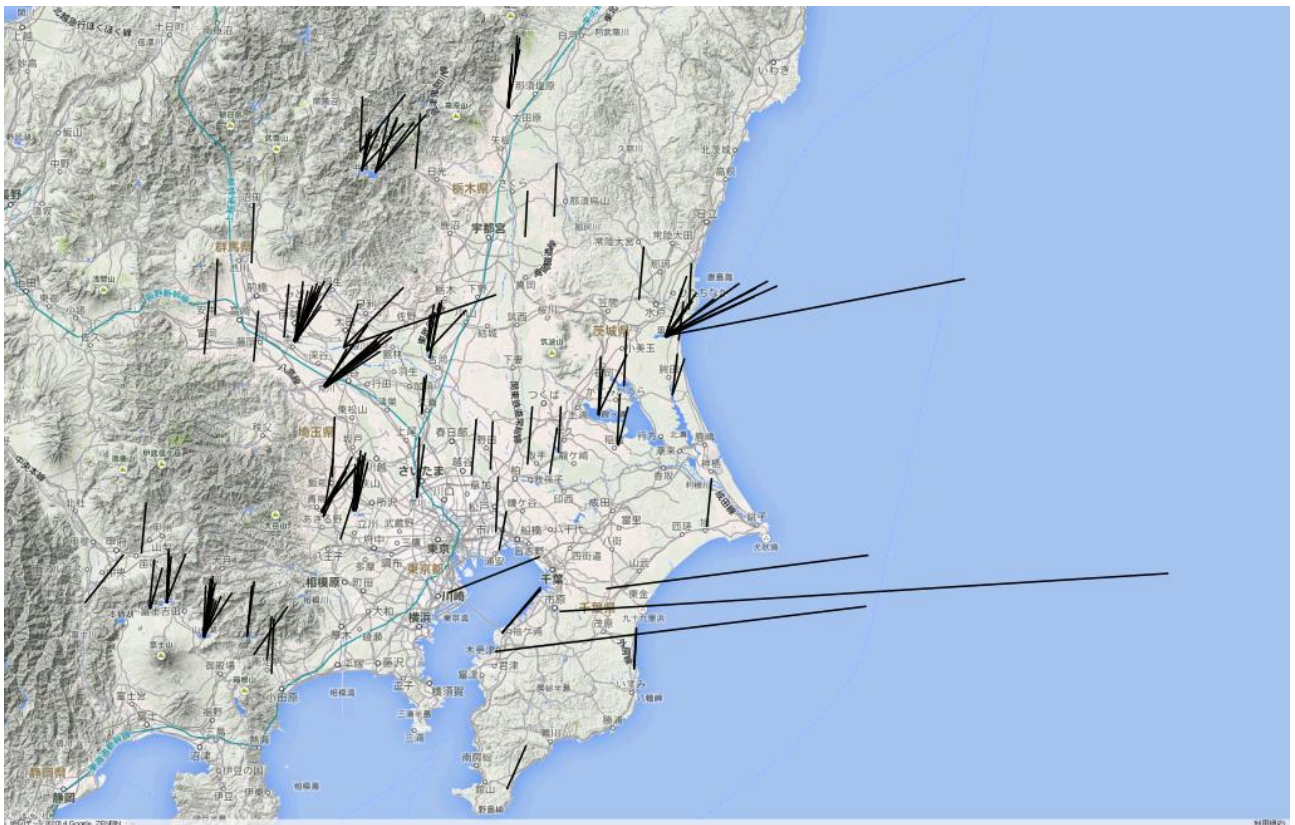
また、同地域にはゴルフ場等の設備もあり、今後の開発への影響への提言の資料となる。

関東における越冬地

以下は、環境省ガンカモ調査の資料より関東一都六県で、海上・河口を除いたホオジロガモの観測データをプロットしたものである。

(期間：平成14年－25年 最近なほど線が横になり、長さが観察数)

この調査では、羽村堰は連続となっていないが、奥多摩支部では13年連続で観察されている。



支援金の使途

トランシーバの購入・ねぐら観察でのセンサーカメラの購入・調査員の交通費等を予定している。

調査状況の公開

日本野鳥の会奥多摩支部のホームページ、ジロ調にて公開されます。

<http://wbsj-okutama.com/>

